

【樹木の部屋】

キダチタバコ(ナス科タバコ属 *Nicotiana glauca*)

和名：キダチタバコ(木立煙草) **別名**：カラシダネ **英名**：Tree tobacco

ナス目 常緑低木 **原産地**：南アメリカ

花言葉：内なる強さ **花の色**：黄



← 写真-1、2 キダチタバコ

撮影日：2018年4月26日

撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 キダチタバコ

撮影日：2018年4月26日

撮影場所：サントリーニ島(ギリシャ)にて

撮影者：M さん

タバコ(*Nicotiana tabacum*)とは別種で、葉や茎に柔毛が無く、成長すると高さ2mほどにもなるそうです。日本では野生化しているようで、和名は、大きく立ち上がることから「木立ち」と名付けたと考えられているそうです。草本のタバコとは異なって木本であり、冬期に寒くなる地域では地上部が枯死するものの地下部が生存することも多く、この場合は多年草のように育つそうです。

種子が微細で、発芽後の成長が早く、背が高くなることから、聖書に登場する「か

らし種」のことに誤解釈された経緯があるようで、このためカラシナ類と誤認識して葉などを食した中毒事例が起きている要注意植物です。

葉は先の尖った長楕円形で、葉柄が長く全縁です。主脈が谷となるように少し湾曲し、互生します。葉や若枝は粉緑色となり、葉の表面は艶があり、裏面は白っぽい粉をふいたような質感が特徴的となります。

枝先の円錐花序に、長さ約 5cm ほどの黄色い筒状の花をつけます。果実は楕円形の莢をもち、中には細かい種子がたくさん入っています。種子が風に乗って広がりやすく、野生化しやすい性質を持っています。耐寒性があり乾燥にも強いので、育てやすいですが、有毒なので取り扱いには注意が必要です。

樹皮は幼木では灰緑色で平滑で、成木では灰褐色で粗面となります。

<ちょっと一言>

・キダチタバコは、海外では、死亡例もあるとのこと。日本でも中毒例が報告されているそうです。有毒成分はアナバシン(ニコチン類似アルカロイド)で、全株が有毒部位です。